

# 令和2年度 学校自己評価システムシート (熊谷市立吉岡中学校)

目指す学校像	確かな学力を身に付け 心豊かなたくましい生徒の育成
--------	---------------------------

重点目標	1 よく学ぶ生徒の育成 2 心豊かな生徒の育成 3 健康でたくましい生徒の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	1名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				令和2年度評価(2月15日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	熊谷市の教育施策である学力日本一を目指すため、基礎基本の定着・授業力の向上・言語活動の充実が課題である。全国学力学習状況調査では、県平均以上であるが、市内では中盤である。また、臨時休業の継続により、教育計画の大幅な見直しが必要である。	1 基礎・基本の徹底 2 授業規律の徹底 3 ねらいを明確にした授業の実践 4 言語活動の充実 5 くまがやラグビー・オリパラプロジェクトの推進 6 教育計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉岡検定の実施</li> <li>ラウンドシステムの考え方</li> <li>くまなびスクール実施</li> <li>学習規律「よしおか」の実施</li> <li>授業開始時刻の厳守</li> <li>毎時間のねらいの提示</li> <li>導入・発問・学習形態の工夫</li> <li>主体的・対話的で深い学び</li> <li>生徒の活動時間を増やす。</li> <li>教科横断的内容の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年100%の達成</li> <li>全学年・全教科で実践</li> <li>参加者の出席率80%以上</li> <li>全教科で実施</li> <li>チャイムであいさつ100%</li> <li>提示率100%</li> <li>生徒満足度80%以上</li> <li>授業研究会年3回の実施</li> <li>各教科70%の実施</li> <li>各教科で教科間の関連づけた視点を見つける(各教科年間5つの分野を発見)</li> <li>授業時数の確保による、教育計画の実践(3学年100%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉中検定合格率 1年 国99%/数97.8%/英95.3% 2年 国99.7%/数93%/英89.4% 3年 国99.8%/数88.1%/英93%</li> <li>全教科で子供と丁寧に接することができた。</li> <li>くまなびスクールの参加率78%</li> <li>学習規律(開始時刻、ねらいの提示)70%以上達成が100%</li> <li>生徒満足度88.2%</li> <li>主体的・対話的で深い学び活動100% 積極性92.4%</li> <li>教科横断的に思考力・判断力・表現力の育成を図った。</li> <li>土曜授業・行事の削減による授業時数の確保により、教育計画100%実践できた。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>吉中検定に英語を加えた。各学年各教科100%達成はできなかったが、繰り返すこと(ラウンドシステムの考え方)により定着が見られるので、できるだけ指導を行い自信をつけさせたい。</li> <li>教科横断的な視点からも、普段からお互いに専門教科以外の授業を参観できる物理的・心理的環境を作り、その研修を授業に生かす。</li> </ul>
2	一人一人の生徒の規範意識が高く、全体的には落ち着いているが、固定化された友人関係により、コミュニケーションの能力が低く細かなトラブルが多い。幅広い教育により、人間関係を充実させる必要がある。	1 時を守り、場を清め、礼を正す 2 道徳授業後の実践 3 スキル教育の充実 4 命の教育・心の教育の推進 5 インクルーシブ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会時の無言整列</li> <li>無言清掃</li> <li>道徳的価値を深める授業実践</li> <li>コミュニケーション能力の向上</li> <li>人権旬間の実施</li> <li>元気なあいさつと返事</li> <li>きめ細やかな日常観察と教育相談の実施</li> <li>交流学級・共同学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%の実施</li> <li>80%の実施</li> <li>道徳校内研究授業年3回</li> <li>道徳後の振り返り(毎時間)</li> <li>各学年3回の実施</li> <li>SCの活用</li> <li>年2回の実施</li> <li>100%の実施</li> <li>教育相談年2回実施</li> <li>アンケート後の聞き取り</li> <li>100%</li> <li>保護者の要望に添えるよう特別支援学級での面談を実施(年3回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会時の無言整列100%</li> <li>清掃の取り組み98.3%(生徒) 校内がきれい96.6%(保護者)</li> <li>道徳の授業公開2回、各学年でSCを活用したSSTの実施を行った。</li> <li>臨時休業もあったが、人権旬間の取り組み、教育相談ともに年2回実施できた。</li> <li>元気な挨拶と返事 95.8%達成(生徒)</li> <li>生活アンケートでの聞き取り100%、早期発見の実施。</li> <li>特別支援学級の保護者と密な連絡・相談ができた。(年3回以上)</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>清掃の取り組みはよいが、「無言で」「自ら仕事を探して」というところまで達成できていない。自主的にという側面を強化したい。</li> <li>SNSに頼ることなく問題解決できる力をつけるために、SSTや話し合い活動を充実させ、認め合う態度を育てて、生徒間のコミュニケーション能力を高めた。</li> </ul>
3	3月からの臨時休業で、生活リズムの乱れと、基礎的な体力が次第に下降している生徒が見られる。また、寝る時間や起きる時間が遅く、基本的な生活習慣が十分に身につけていない生徒も見られる。体力のさらなる向上を目指していきたい。	1 くまがやラグビー・オリパラプロジェクトによる体力向上の推進 2 健康教育と食育の充実 3 安全行動の習慣化と事故防止の徹底および自然災害時の主体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題をふまえた授業の実施</li> <li>「汗をかく授業」の取組</li> <li>生活習慣の改善</li> <li>家族と一緒に朝ご飯の奨励</li> <li>自らの命は自ら守る意識</li> <li>対応マニュアルの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト総合評価95%以上(A+B+C)</li> <li>100%の実施</li> <li>臨時休業中のHQCシート実施と確認</li> <li>朝ご飯摂取率98%以上</li> <li>小中合同避難訓練(引き渡し訓練)実施 年1回(秋実施)</li> <li>避難訓練の迅速な行動と避難所開設時の中学生としての意識向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト総合評価(A+B+C)学校全体84.7% 1年83.7% 2年82.6% 3年87.8%</li> <li>授業では説明を工夫し時間短縮することで、運動量を確保した。</li> <li>年間を通してHQCシートを実施し、生徒の健康管理を行った。</li> <li>「朝ご飯を毎日食べる。」86% 「家族と一緒にご飯を食べる。」83.5%(保護者)</li> <li>小中合同防災訓練1回実施。校内防災訓練年3回実施し、うち1回は消防署員を招いての消火訓練を行った。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、部活動の中止や体育活動内容の制限があったが、その状況下でできること工夫・改善が必要である。</li> <li>朝ご飯を毎日食べることに對する、本人の意識付けを強化したい。寝る時間と合わせた指導や専門家からの講演など、その気にさせる指導の工夫をしたい。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年3月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で授業の遅れが心配されたが、計画の見直しにより授業日数の確保ができたのは、学校の努力による。</li> <li>生徒の学力についても、学校や教科の工夫による成果が出ている。</li> <li>全国及び県の学力調査結果からも、個に応じた指導が徹底され、密度の濃い授業が展開されていることがうかがえる。</li> <li>県学調からみられる下位層の底上げは素晴らしい。今後も家庭と連携し、スモールステップで着実な実践をして欲しい。</li> <li>生徒の学習に対する満足度が88.2%と高いことから、今年度の育成は成功していると思う。</li> <li>吉中検定の実施は大変良いと思う。定期試験の間が広いので、検定による学習の意識付けは大事だと思う。</li> <li>朝読書の取り組みが良い。デジタル化が進む中、継続的な取組を期待する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が生き生きとしていると感じる。</li> <li>できることはやる姿勢がよく表れていた。地域からも、少しでも学校行事ができるように工夫してもらってよかったとの声を聞いている。</li> <li>学校の決まり、社会規範を守ることの重要性をしっかりと学び、実践力を育むことへの評価が99%台であることから、学校生活の質の高さがうかがえる。</li> <li>朝の立哨をしていてもよく挨拶してくれる。男女の仲もよく穏やかな表情で登校している。</li> <li>生徒相互の良好な関係が築かれ、温かく和やかな雰囲気になされている。</li> <li>対話によるコミュニケーションが難しい現代だが、本来コミュニケーションは生徒同士の何気ない会話や部活での異学年との対話により築かれ、授業ではない日常から生まれるのではないかな?</li> </ul>	